

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-206148

(P2017-206148A)

(43) 公開日 平成29年11月24日(2017.11.24)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B60R 13/02 (2006.01)	B60R 13/02 B	2E250
B60J 5/04 (2006.01)	B60J 5/04 H	3D023
E05B 79/06 (2014.01)	E05B 79/06 A	
E05B 79/22 (2014.01)	E05B 79/22 A	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 24 頁)

(21) 出願番号	特願2016-100531 (P2016-100531)	(71) 出願人	000241500
(22) 出願日	平成28年5月19日 (2016.5.19)		トヨタ紡織株式会社
			愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地
		(74) 代理人	110001036
			特許業務法人暁合同特許事務所
		(72) 発明者	林 伸樹
			愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 トヨタ
			紡織株式会社内
		(72) 発明者	山根 亮
			愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 トヨタ
			紡織株式会社内
		Fターム(参考)	2E250 AA21 HH01 KK01 LL01 MM03
			PP13 QQ08
			3D023 BA01 BB08 BC01 BD03 BD31

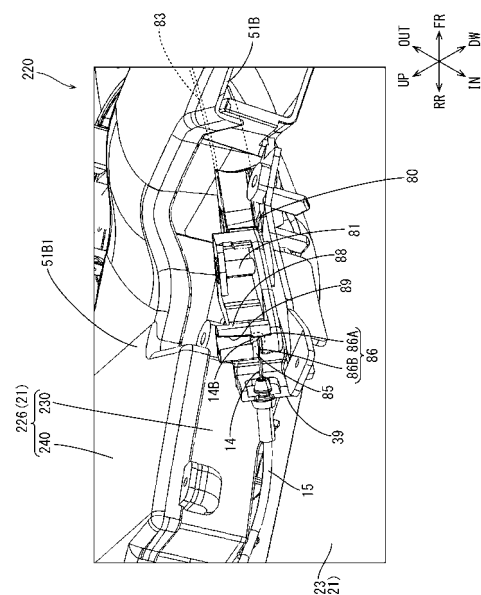
(54) 【発明の名称】 車両用ドアトリム

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 トリム本体部の中央部に配されたインサイドハンドル装置を備える車両用ドアトリムにおいて、インサイドハンドル装置にケーブルを接続する作業の作業性を向上する。

【解決手段】 ドアトリム220は、車両用ドアを構成するドアインナパネルの車室内側に取り付けられるドアトリム220であって、ドアインナパネルを車室内側から覆うトリム本体部23と、トリム本体部23の中央部に配され、車両用ドアのロック装置を操作するためのインサイドハンドル装置80と、を備え、インサイドハンドル装置80は、一端部がロック装置13に接続されたケーブル14の他端部14Bに係止される係止部85と、係止部85から車室外側に向かって延びる形をなし、ケーブル14の他端部14Bに係止部85まで案内するガイド部88と、を備えている。

【選択図】 図13



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両用ドアを構成する車体パネルの車室内側に取り付けられる車両用ドアトリムであって、

前記車体パネルを車室内側から覆うトリム本体部と、

前記トリム本体部の中央部に配され、前記車両用ドアのロック装置を操作するためのインサイドハンドル装置と、を備え、

前記インサイドハンドル装置は、一端部が前記ロック装置に接続されたケーブルの他端部が係止される係止部と、前記係止部から車室外側に向かって延びる形をなし、前記ケーブルの前記他端部を前記係止部まで案内するガイド部と、を備えることを特徴とする車両用ドアトリム。

10

【請求項 2】

前記ガイド部は、少なくとも前記トリム本体部における前記係止部の直上に位置する部位の車室外側の面の位置まで延びる形をなすことを特徴とする請求項 1 に記載の車両用ドアトリム。

【請求項 3】

前記トリム本体部は、

少なくとも車両上方に向けて開口するとともに、内部に手指を挿入可能な挿入空間を有する挿入壁部と、

前記挿入壁部の車室内側において、前記挿入空間に手指を挿入する形で把持可能に設けられた把持部と、を備え、

20

前記インサイドハンドル装置は、ハンドル部が前記挿入空間内に配されるとともに、前記係止部が前記挿入壁部における車室外側に位置する奥壁に沿って前記トリム本体部の車室外側に延出する形で配され、

前記ガイド部は、少なくとも前記奥壁の車室外側の面の位置まで延びる形をなすことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の車両用ドアトリム。

【請求項 4】

前記ケーブルは、前記他端部が前記ケーブルの径より大径な球状とされ、

前記ガイド部は、車室外側に向けて延びる筒状をなし、その内周面に前記他端部が摺接する態様で前記係止部に向けて案内する構成とされ、

30

さらに、前記ガイド部には、その車両下側の位置において、前記他端部を案内する際に前記ケーブルが挿通される切れ込み状のスリット部が形成されていることを特徴する請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載の車両用ドアトリム。

【請求項 5】

前記インサイドハンドル装置は、ハンドル部が車両上方に向けて回転することで、前記ロック装置による前記車両用ドアのロック状態を解除可能な構成とされていることを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか一項に記載の車両用ドアトリム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

40

本発明は、車両用ドアトリムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、車両用ドアトリムとして、下記特許文献 1 に記載のものが知られている。特許文献 1 には、車両用ドアトリムとして、トリム本体部の上部にドアインサイドハンドルが配されるものが開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 特許第 4 7 3 5 0 1 1 号公報

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、インサイドハンドル装置（ドアインサイドハンドル）にケーブル（ドア操作ケーブル）を接続する作業は、作業者が車両用ドアトリムの車室内側にいる状態で、その上部から車両用ドアトリムの裏面を覗き込み、車両用ドアトリムとドアインナパネルとの間に腕を挿入して行っている。このため、特許文献1のようなトリム本体部の上部にドアインサイドハンドルが配される構成においては、ドア操作ケーブルをドアインサイドハンドルに接続する作業を、比較的、手の届き易い位置で行うことが可能となっている。

【0005】

一方、トリム本体部の中央部にインサイドハンドル装置が配される車両用ドアトリムでは、ケーブルをインサイドハンドル装置に接続する作業を、特許文献1のような構成に比べて、手の届き難い位置で行う必要があり、その作業性が悪化することが懸念される。

【0006】

本発明は上記のような事情に基づいて完成されたものであって、トリム本体部の中央部に配されたインサイドハンドル装置を備える車両用ドアトリムにおいて、インサイドハンドル装置にケーブルを接続する作業の作業性を向上することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するために、本発明の車両用ドアトリムは、車両用ドアを構成する車体パネルの車室内側に取り付けられる車両用ドアトリムであって、前記車体パネルを車室内側から覆うトリム本体部と、前記トリム本体部の中央部に配され、前記車両用ドアのロック装置を操作するためのインサイドハンドル装置と、を備え、前記インサイドハンドル装置は、一端部が前記ロック装置に接続されたケーブルの他端部が係止される係止部と、前記係止部から車室外側に向かって延びる形をなし、前記ケーブルの前記他端部を前記係止部まで案内するガイド部と、を備えることに特徴を有する。

【0008】

本発明によれば、インサイドハンドル装置が係止部から車室外側に向かって延びる形のガイド部を備えるから、係止部がトリム本体部の上部に配されない場合であっても、ケーブルの他端部を係止部に対して車室外側から係止し易い。この結果、車両用ドアトリムを車体パネルに取り付ける際に、作業者が車両用ドアトリムと車体パネルの間において、上方から手を伸ばしてケーブルを係止部に係止する場合であっても、例えば、インサイドハンドル装置がトリム本体部の上部に配される場合に比べて、作業者の手が届きにくい位置でケーブルを係止する作業の作業性を向上することができる。

【0009】

上記構成において、前記ガイド部は、少なくとも前記トリム本体部における前記係止部の直上に位置する部位の車室外側の面の位置まで延びる形をなすものであってもよい。このような構成によれば、ガイド部が係止部の直上に位置する部位に隠れる事態の発生を抑制することができ、車両用ドアトリムの上方から覗き込むようにしてケーブルを係止部に係止する作業者がガイド部を視認し易く、より一層、ケーブルを係止する作業の作業性を向上することができる。

【0010】

上記構成において、前記トリム本体部は、少なくとも車両上方に向けて開口するとともに、内部に手指を挿入可能な挿入空間を有する挿入壁部と、前記挿入壁部の車室内側において、前記挿入空間に手指を挿入する形で把持可能に設けられた把持部と、を備え、前記インサイドハンドル装置は、ハンドル部が前記挿入空間内に配されるとともに、前記係止部が前記挿入壁部における車室外側に位置する奥壁に沿って前記トリム本体部の車室外側に延出する形で配され、前記ガイド部は、少なくとも前記奥壁の車室外側の面の位置まで延びる形をなすものであってもよい。このような構成によれば、ガイド部が奥壁に隠れる事態の発生を抑制することができ、車両用ドアトリムの上方から覗き込むようにしてケー

10

20

30

40

50

ブルを係止部に係止する作業者がガイド部を視認し易く、より一層、ケーブルを係止する作業の作業性を向上することができる。

【0011】

上記構成において、前記ケーブルは、前記他端部が前記ケーブルの径より大径な球状とされ、前記ガイド部は、車室外側に向けて延びる筒状をなし、その内周面に前記他端部が摺接する態様で前記係止部に向けて案内する構成とされ、さらに、前記ガイド部には、その車両下側の位置において、前記他端部を案内する際に前記ケーブルが挿通される切れ込み状のスリット部が形成されていてもよい。このような構成によれば、ケーブルを他端部から下方に延びる姿勢としてスリット部に挿通することで、トリム本体部における係止部の直上の部位とケーブルとの干渉を回避し易く、ケーブルを係止する作業の作業性を向上することができる。

10

【0012】

上記構成において、前記インサイドハンドル装置は、ハンドル部が車両上方に向けて回転することで、前記ロック装置による前記車両用ドアのロック状態を解除可能な構成とされていてもよい。このような構成では、例えば、車両上方へ向けて回転するハンドル部を有するインサイドハンドル装置に比べて、その操作性を考慮して、インサイドハンドル装置の位置が車両用ドアトリム本体部の車両下方に位置することが想定されるが、ガイド部を備えることで、ケーブルを係止する作業の作業性を向上することができる。

【発明の効果】

【0013】

本発明によれば、トリム本体部の中央部に配されたインサイドハンドル装置を備える車両用ドアトリムにおいて、インサイドハンドル装置にケーブルを接続する作業の作業性を向上することができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の実施形態1に係る車両用ドアを示す斜視図

【図2】ドアトリムを車室内側から見た平面図

【図3】取付部材の分解斜視図

【図4】ドアトリムのドアグリップ付近の断面図（図2のI-V-I V線で切断した図に対応）

30

【図5】ドアトリムのプルハンドル付近の断面図（図2のV-V線で切断した図に対応）

【図6】インサイドハンドル装置を模式的に示す説明図

【図7】締結部を示す断面図（図6のV I I - V I I線で切断した図に対応）

【図8】突出部を示す断面図（図6のV I I I - V I I I線で切断した図に対応）

【図9】後上締結部を示す断面図（図6のI X - I X線で切断した図に対応）

【図10】本発明の実施形態2に係るインサイドハンドル装置を模式的に示す説明図

【図11】本発明の実施形態3に係るドアトリムを車室内側から見た平面図

【図12】ドアトリムを車室外側から見た平面図

【図13】インサイドハンドル装置のガイド部付近を車両下方かつ車室外側から見た斜視図

40

【図14】インサイドハンドル装置のガイド部付近を車両上方かつ車室外側から見た斜視図

【図15】ケーブルの取り付け態様を説明する説明図

【図16】規制部を車室外側から見た平面図

【図17】規制部を車両後方から見た側面図

【図18】本発明の実施形態4に係るドアトリムを示す斜視図

【図19】インサイドハンドル装置を模式的に示す説明図（図18のI X - I X線で切断した図に対応）

【図20】実施形態4の変形例1に係るドアトリムを示す斜視図

【発明を実施するための形態】

50

【0015】

<実施形態1>

本発明の実施形態1を図1ないし図6によって説明する。本実施形態では、運転席の側に配されたドアトリム（車両用ドアトリム）20について例示する。以下の説明では、図1のX軸方向を車両前後方向、Y軸方向を車幅方向（車室内外方向）、Z軸方向を上下方向として説明する。

【0016】

ドアトリム20は、図1に示すように、車両用ドア10を構成するドアインナパネル（車体パネルの一例）11の車室内側に取り付けられ、車両用ドア10の車室内面10Aを構成するものである。ドアトリム20は、ドアインナパネル11を車室内側から覆うトリム本体部21を主体に構成されている。トリム本体部21は、トリムボード23と、後述する各種機能部品をトリムボード23に対して取り付けるための取付部材26とから少なくとも構成されている。なお、ドアトリム20は、取付部材26によって取り付けられる機能部品以外にも、ドアポケット16やスピーカグリル（不図示）といった機能部品を更に備えている。

10

【0017】

また、ドアトリム20は、図1に示すように、ドアグリップ50、スイッチベース60、プルハンドル70、インサイドハンドル装置80といった各種機能部品を備えている。これらの機能部品は、その機能を発揮する上で、いずれも乗員が手を掛けたり、手で操作したりする部品であり、その使用性を向上するうえで、乗員の手の届き易い位置に配することが好ましい部品であると言える。以下、トリムボード23、取付部材26、各種機能部品について順次に説明する。

20

【0018】

トリムボード23は、図2に示すように、例えば、ポリプロピレン等の合成樹脂材料によって構成された板状の部材とされる。なお、トリムボード23の材質は、合成樹脂材料に限定されず、例えば、木質系材料（例えば、ケナフ、ヘンプ、フラックス、サイザルなど）と合成樹脂を混合したものなどを用いてもよい。また、トリムボード23は、メインボードとオーナメント等の複数のボード部材を互いに組み付ける形で構成されていてもよい。トリムボード23には、その中央部、つまり運転席に着座した乗員の前腕部付近に位置して、平面視逆三角形状の開口部24が形成されている。この開口部24には、取付部材26が配設されている。

30

【0019】

取付部材26は、図3に示すように、第1部材30と、第1部材30の車室外側に配される第2部材40とで構成されている。本実施形態では、第1部材30が、平面視V字状の板状部材とされるとともに、第2部材40が、平面視逆三角形状の板状部材とされるものを例示する。第1部材30と第2部材40とは、第2部材40の下部に、車室内側から第1部材30が重なる形で、互いに組み付けられている。なお、第1部材30は、これと同様の外形をなす加飾パネル28によって更に車室内側から覆われている。この取付部材26は、開口部24を閉塞する形でトリムボード23に取り付けられる。

【0020】

第1部材30は、図3に示すように、ドアグリップ50の相対的に車室内側に位置する部分を構成する第1ドアグリップ用挿入壁部31と、プルハンドル70の相対的に車室内側に位置する部分を構成する第1プルハンドル用挿入壁部32と、を備えている。第1ドアグリップ用挿入壁部31は、V字状をなす第1部材30の車両前方に向かうにつれて上昇する部分に設けられている。また、第1プルハンドル用挿入壁部32は、V字状をなす第1部材30の車両後方に向かうにつれて緩やかに上昇する部分に設けられている。そして、第1部材30には、第1ドアグリップ用挿入壁部31と第1プルハンドル用挿入壁部32の間に位置する角部33に、インサイドハンドル装置80の回動軸81が突設されている（図5参照）。

40

【0021】

50

第２部材４０は、図３に示すように、ドアグリップ５０の相対的に車室外側に位置する部分を構成する第２ドアグリップ用挿入壁部４１と、プルハンドル７０の相対的に車室外側に位置する部分を構成する第２プルハンドル用挿入壁部４２と、を備えている。第２ドアグリップ用挿入壁部４１は、逆三角形形状をなす第２部材４０の車両前側辺部に設けられている。また、第２プルハンドル用挿入壁部４２は、逆三角形形状をなす第２部材４０の車両後側辺部に設けられている。第２部材４０には、車両上側辺部において、スイッチベース６０が取り付けられるスイッチベース取付部４３が設けられている。スイッチベース取付部４３は、車室内側に張り出す形で構成されている。また、第２部材４０は、その中央部が車両前後方向かつ車両上下方向に沿って延在するとともに、トリムボード２３の開口部２４から車室内に露出して、車室内面１０Ａを構成する取付部材側意匠面４４とされている。

10

【００２２】

ドアグリップ５０は、図４に示すように、ドアグリップ用挿入壁部５１と、ドアグリップ用挿入壁部５１の車室内側において、把持可能に設けられたドアグリップ用把持部（把持部の一例）５５と、を備えて構成されている。ドアグリップ５０は、例えば、乗員が姿勢を保持する際等に把持可能な構成とされる。また、本実施形態では、ドアグリップ用把持部５５に隣接してインサイドハンドル装置８０のハンドル部８３が設けられており、ドアグリップ５０は、インサイドハンドル装置８０のハンドル部８３に手を掛けた状態で把持可能とされている。つまり、ドアグリップ５０は、車両用ドア１０を開ける際に、好適にこれを把持して車両用ドア１０を操作可能な構成とされており、車両用ドア１０を操作するための第１の操作部とも言える。

20

【００２３】

ドアグリップ用挿入壁部５１は、図４に示すように、車両上方かつ車両後方に向けて開口するとともに、内部に手指を挿入可能なドアグリップ用挿入空間５３を有する。ドアグリップ用挿入壁部５１は、第１部材３０の第１ドアグリップ用挿入壁部３１と、第２部材４０の第２ドアグリップ用挿入壁部４１とを組み付けてなり、両壁部３１，４１の間にドアグリップ用挿入空間５３が画成される。なお、図３においては図示を省略するが、ドアグリップ用挿入空間５３は、底面がドアグリップ用挿入壁部５１とは別の部材（不図示）で閉塞されることで有底凹状に構成されている。

【００２４】

30

ドアグリップ用把持部５５は、図４に示すように、ドアグリップ用挿入空間５３に手指を挿入する形で把持可能な構成とされる。ドアグリップ用把持部５５は、第１ドアグリップ用挿入壁部３１の上端部５１Ａに形成されている。上端部５１Ａは、その他の部分より板厚が大きく設定され、ハンドル部８３と隣接する部分においては、一部車室外側に張り出して、ハンドル部８３の上方に重なる形とされている。

【００２５】

スイッチベース６０は、図３及び図５に示すように、車両前後方向かつ車室内外方向に沿って延在する板状部材とされ、板面に開口する形でスイッチ操作部６１Ａ（図２参照）が配されるスイッチ用開口６１を有している。詳細には、スイッチベース６０は、第２部材４０の車両上側辺部の車両前端部から車両後端部にまで延設され、取付部材２６の上端部を覆う加飾パネルのような役目を果たしている。スイッチベース６０は、スイッチベース取付部４３に対して、例えば、爪嵌合等の取付手段により取り付けられている。スイッチ操作部６１Ａは、例えば、車両用ドア１０に装備された電装部品を駆動するためのものとされ、ウィンドウレギュレータの駆動スイッチ等である。

40

【００２６】

プルハンドル７０は、図５に示すように、プルハンドル用挿入壁部７１と、プルハンドル用挿入壁部７１の車室内側において、把持可能に設けられたプルハンドル用把持部７５と、を備えて構成されている。プルハンドル７０は、例えば、後述するプルハンドル用挿入空間７３に手指を挿入して、車両用ドア１０を開閉操作可能な構成とされている。つまり、プルハンドル７０は、車両用ドア１０を操作するための第２の操作部とも言える。本

50

実施形態では、プルハンドル70は、ドアグリップ50より車両後方、つまり、一般的なヒンジ式の車両用ドア10において、第1の操作部であるドアグリップ50より開閉時の回動軸より遠い位置に配されているから、低い荷重でもって車両用ドア10を操作可能とされる。

【0027】

プルハンドル用挿入壁部71は、図5に示すように、車両上方に向けて開口するとともに、内部に手指を挿入可能なプルハンドル用挿入空間（挿入空間の一例）73を有する。プルハンドル用挿入壁部71は、第1部材30の第1プルハンドル用挿入壁部32と、第2部材40の第2プルハンドル用挿入壁部42とを組み付けてなり、両壁部32、42の間に有底凹状のプルハンドル用挿入空間73が画成される。

10

【0028】

プルハンドル用把持部75は、図5に示すように、プルハンドル用挿入空間73に手指を挿入する形で把持可能な構成とされる。プルハンドル用把持部75は、第1プルハンドル用挿入壁部32が、プルハンドル用挿入空間73の開口縁において、車室内側に屈曲する形で構成されている。プルハンドル用把持部75の上面75Aは、水平方向に対して緩やかに傾斜する形で延在し、アームレスト17としての役目を果たす。

【0029】

ところで、車両用ドア10には、図1に示すように、ドアインナパネル11とドアアウトパネル（不図示）との間に、当該車両用ドア10を閉じた状態でロックするロック装置13が設けられている。ロック装置13には、ケーブル14の一端部14Aが接続されている。ケーブル14は、ドアインナパネル11を貫通して、ドアインナパネル11の車室内側かつドアトリム20の車室外側に導出され、その他端部14Bがインサイドハンドル装置80に接続される。このような構成により、ロック装置13は、車室内からインサイドハンドル装置80を操作して、ロック状態を解除可能とされている。

20

【0030】

インサイドハンドル装置80は、図5及び図6に示すように、車室内外方向に沿って延びる形で取付部材26に設けられた回動軸81と、回動軸81から車両前方に向けて延出した長尺レバー状のハンドル部83と、回動軸81から車両後方に向けて延出して、ケーブル14の他端部14Bが係止される係止部85と、を備えている。インサイドハンドル装置80は、ハンドル部83、回動軸81、及び係止部85がそれぞれ力点、支点、及び作用点とされる第1種てこのような態様となっている。

30

【0031】

回動軸81は、図5に示すように、第1部材30の車室外側面に突設されている。また、回動軸81は、その車室外側の端部を支持する支持部材82によって、第1部材30に対して移動不能に固定されている。回動軸81は、ドアグリップ用挿入壁部51とプルハンドル用挿入壁部71の間において、トリム本体部21の車室外側に配されている。

【0032】

ハンドル部83は、図4及び図6に示すように、待機位置P1と、待機位置P1から回動軸81を中心として車両上方に向けて回動することで、ロック装置13による車両用ドア10のロック状態を解除可能な解除位置P2と、の間で回動可能な構成とされている。なお、ハンドル部83は、解除位置P2から待機位置P1に復帰可能なように、トーションパネ等の弾性部材によって車両下方に付勢されている。

40

【0033】

続いて、ドアグリップ50、スイッチベース60、プルハンドル70、及びインサイドハンドル装置80の配置構成について説明する。

スイッチベース60とインサイドハンドル装置80とプルハンドル70は、図2に示すように、インサイドハンドル装置80及びプルハンドル70の車両上方にスイッチベース60が位置するようにして、取付部材26の周縁部26Aにそれぞれ配されている。つまり、スイッチベース60とインサイドハンドル装置80とプルハンドル70は、ドアトリム20の開口部24を囲むようにして配されている。また、ドアグリップ50とプルハン

50

ドル７０とは、ドアグリップ５０の車両後方にプルハンドル７０が位置するとともに、そのドアグリップ用把持部５５とプルハンドル用把持部７５とがＶ字状に交差するようにしてそれぞれ延設されている。ドアトリム２０は、図５に示すように、車両上下方向については、スイッチベース６０が車室内側に向けて膨出するとともに、その車両下方において、プルハンドル７０が車室内側に向けて膨出する、２つの膨出形状を有している。このような構成により、ドアトリム２０は、例えば、プルハンドルの車両前方にスイッチベースが配された１つの膨出形状を有する一般的なドアトリムの意匠と相違した、斬新な意匠を呈する。

【００３４】

インサイドハンドル装置８０は、図２及び図６に示すように、トリム本体部２１の中央部において、取付部材２６（第１部材３０）の角部３３付近に配されている。そして、インサイドハンドル装置８０は、ハンドル部８３がドアグリップ用挿入空間５３内に位置するとともに、係止部８５がドアグリップ用挿入壁部５１における車室外側に位置する奥壁５１Ｂに沿ってトリム本体部２１の車室外側に延出する形で配されている。ハンドル部８３は、ドアグリップ用把持部５５の車室外側に配されている。言い換えれば、ハンドル部８３は、ドアグリップ用把持部５５によって車室内側から覆われている。また、係止部８５は、ドアグリップ用挿入壁部５１とプルハンドル用挿入壁部７１との間において、トリム本体部２１とドアインナパネル１１との間に配されている。

【００３５】

続いて、ドアグリップ５０、スイッチベース６０、プルハンドル７０、及びインサイドハンドル装置８０の取り付け構成について説明する。

上述したように、ドアグリップ５０とスイッチベース６０とプルハンドル７０とインサイドハンドル装置８０は、一の取付部材２６に対してそれぞれ設けられることで一体的に構成されている。つまり、取付部材２６のトリムボード２３への組み付けに先立って、ドアグリップ５０、スイッチベース６０、プルハンドル７０、及びインサイドハンドル装置８０が、取付部材２６に対して予め組み付けられて、サブアッセンブリー化されている。なお、スイッチベース６０については、その構成上、取付部材２６をトリムボード２３に対して取り付け後に、取付部材２６に対して取り付けることも可能である。

【００３６】

そして、一体的に構成されたドアグリップ５０、スイッチベース６０、プルハンドル７０、及びインサイドハンドル装置８０は、図５に示すように、取付部材２６を介してトリムボード２３に取り付けられている。詳細には、取付部材２６は、車室外側の面に複数の取付ボス２６Ｂが立設されており、取付ボス２６Ｂがトリムボード２３の開口部２４の孔縁に設けられた取付孔２４Ａに対して熱カシメされることで、トリムボード２３に取り付けられている。すると、自ずと、ドアグリップ５０、スイッチベース６０、プルハンドル７０、及びインサイドハンドル装置８０がトリムボード２３に取り付けられた状態となる。このような態様により、各種機能部品を備えたドアトリム２０が構成される。

【００３７】

その後、ドアトリム２０は、ドアインナパネル１１に対して締結部材１９やクリップ（不図示）等の締結部材を介して取り付けられる。ドアトリム２０のうち、取付部材２６は次のような態様でドアインナパネル１１に対して取り付けられる。

【００３８】

取付部材２６は、図６に示すように、ドアインナパネル１１に対して締結される締結部３５、前上締結部３６、及び後上締結部３７と、車室外側に向けて突出する突出部３８を有している。各締結部３５、３６、３７は、締結部材１９を挿通可能な孔部とされ、締結部材１９を介してドアインナパネル１１に締結されている（図７及び図９参照）。締結部材１９は、ネジ式クリップ１９Ａと、ネジ式クリップ１９Ａに螺合して、これを拡張変形させるネジ１９Ｂと、で構成されている。ドアインナパネル１１には各締結部３５、３６、３７と連通する位置に締結部材用貫通孔１１Ａが形成されている。そして、締結部材用貫通孔１１Ａに、ネジ式クリップ１９Ａを挿通し、各締結部３５、３６、３７を介して車

室内側からネジ式クリップ 19 A にネジ 19 B を螺合することで、各締結部 35, 36, 37 をドアインナパネル 11 に対して締結可能となっている。なお、本実施形態では、取付部材 26 のうち第 1 部材 30 に締結部 35、前上締結部 36、及び後上締結部 37 が形成され、これらと連通する形で第 2 部材 40 にそれぞれ締結部 45, 46, 47 が形成されており、第 1 部材 30 と第 2 部材 40 とが、ドアインナパネル 11 に対して共締めされている。また、後上締結部 37 においては、取付部材 26 とトリムボード 23 とが、ドアインナパネル 11 に対して共締めされている（図 9 参照）。一方、突出部 38 は、第 1 部材 30 において、第 2 部材 40 と重ならない位置に設けられている（図 8 参照）。

【0039】

締結部 35 は、図 6 に示すように、インサイドハンドル装置 80 の回動軸 81 に対して、解除位置 P2 に至るハンドル部 83 の回動方向（図 6 の矢印の方向）とは反対側に位置する。言い換えれば、締結部 35 は、回動軸 81 に対して解除位置 P2 におけるハンドル部 83 の長手方向と交差する方向かつ車両下方に位置する。具体的には、解除位置 P2 におけるハンドル部 83 の長手方向は、車両前後方向に対して $40^{\circ} \sim 70^{\circ}$ 程度傾斜しており、締結部 35 は、これと略直交する方向かつ車両下方、つまり、回動軸 81 に対して車両前方かつ下方に、回動軸 81 と近接して配されている。

【0040】

突出部 38 は、図 6 に示すように、回動軸 81 に対して締結部 35 の反対側に位置する。言い換えれば、突出部 38 は、回動軸 81 に対して解除位置 P2 におけるハンドル部 83 の長手方向と交差する方向（略直交する方向）かつ車両上方、つまり、車両後方かつ上方に位置する。さらに言い換えれば、突出部 38 は、締結部 35 との間に回動軸 81 が介在するような位置に、回動軸 81 と近接して配されている。

【0041】

突出部 38 は、図 8 に示すように、ドアインナパネル 11 に貫通形成された突出部用貫通孔（貫通孔の一例）11 B に挿通されることで、取付部材 26（その第 1 部材 30）がドアインナパネル 11 のパネル面方向（XZ 方向）に変位することを規制可能な構成とされる。具体的には、突出部 38 は、その側方に車室外側に向かうにつれて先細る側方リブ 38 A を有しており、側方リブ 38 A が突出部用貫通孔 11 B の内周面に当接する態様で突出部用貫通孔 11 B に挿通されている。このような態様により、突出部 38 は突出部用貫通孔 11 B に対して径方向にガタつくことが抑制されている。

【0042】

前上締結部 36 は、図 6 に示すように、締結部 35 の車両前方かつ上方に位置する。また、後上締結部 37 は、締結部 35 の車両後方かつ上方に位置する。そして、取付部材 26 は、締結部 35 と前上締結部 36 との間にドアグリップ用把持部 55 を有するとともに、締結部 35 と後上締結部 37 との間にプルハンドル用把持部 75 を有している。本実施形態では、V 字状をなす第 1 部材 30 の角部 33 に回動軸 81 と締結部 35 が配されるとともに、両端部に前上締結部 36 と後上締結部 37 が配されている。また、本実施形態では、全体として略三角形形状をなす取付部材 26 の各頂点に、締結部 35、前上締結部 36、後上締結部 37 が配されている。

【0043】

続いて、本実施形態の作用・効果について説明する。

本実施形態では、取付部材 26 の締結部 35 がドアインナパネル 11 に対して締結されるから、インサイドハンドル装置 80 の操作に伴って、取付部材 26 に作用する力をドアインナパネル 11 で受けることができる。このため、例えば、取付部材 26 がドアインナパネル 11 に対して締結されず、トリムボード 23 を介してドアインナパネル 11 に対して締結される構成に比べて、インサイドハンドル装置 80 の操作に伴って、取付部材 26 とトリムボード 23 との間でガタつきが生じたり、取付部材 26 とトリムボード 23 との組み付け状態が損なわれたりする事態の発生を抑制することができる。ところで、ハンドル部 83 の解除位置 P2 では、取付部材 26 における回動軸 81 が設けられた部位に、ハンドル部 83 の回動方向（図 6 の矢印の方向）に向かうような荷重が作用することが懸念

される。本実施形態では、取付部材 26 において、ドアインナパネル 11 との締結部 35 を、回動軸 81 に対して、解除位置 P2 に至るハンドル部 83 の回動方向とは反対側に配することで、回動軸 81 が設けられた部位に上述のような力が作用したとしても、締結部 35 を中心とした回転モーメントが発生し難く、取付部材 26 に作用する荷重を締結部 35 で好適に受けることができる。このため、取付部材 26 の回動軸 81 が設けられた部位にハンドル部 83 の回動方向に向かうような荷重が作用したとしても、取付部材 26 とトリムボード 23 との間でガタつきが生じたり、取付部材 26 とトリムボード 23 の組み付け状態が損なわれたりする事態の発生を抑制することができる。

【0044】

ところで、ドアインナパネル 11 のようなパネル状の部材に対して取付部材 26 を締結する構成においては、一般的に、取付部材 26 は、ドアインナパネル 11 への締結方向（パネル面と直交する方向、Y 軸方向）についてはガタつき難いが、ドアインナパネル 11 のパネル面の面方向（XZ 方向）については、締結部材 19 を締結するために要するクリアランスの分だけガタつきが生じうる。このため、ハンドル部 83 が車両上方（図 6 の矢印の方向）、つまり、ドアインナパネル 11 のパネル面に沿って回動するような構成においては、取付部材 26 をドアインナパネル 11 に対して締結したとしても、取付部材 26 がドアインナパネル 11 のパネル面に沿ってガタつくことが懸念される。一方、本実施形態によれば、取付部材 26 において、回動軸 81 に対して締結部 35 の反対側の位置において突出部 38 が設けられているから、ハンドル部 83 からの力が作用する回動軸 81 が設けられた部位の両側において、取付部材 26 とドアインナパネル 11 をパネル面と直交する方向と、パネル面に沿った方向とで位置合わせすることができる。この結果、より一層好適に、取付部材 26 とトリムボード 23 との間でガタつきが生じる事態の発生を抑制することができる。

【0045】

また、本実施形態では、取付部材 26 は、締結部 35 の車両前方かつ上方に位置して、ドアインナパネル 11 に対して締結される前上締結部 36 と、締結部 35 の車両後方かつ上方に位置して、ドアインナパネル 11 に対して締結される後上締結部 37 と、を有している。このため、取付部材 26 を互いに同一直線上に位置しない 3 点でドアインナパネル 11 に対して取り付けることができ、取付部材 26 をドアインナパネル 11 に対して安定的に取り付けることができる。

【0046】

また、本実施形態では、取付部材 26 は、締結部 35 と前上締結部 36 との間に、把持可能なドアグリップ用把持部 55 を有し、ハンドル部 83 は、ドアグリップ用把持部 55 の車室外側に配されている。このため、ドアグリップ用把持部 55 を把持する際に取付部材 26 に係る荷重についても、締結部 35 と前上締結部 36 とで受けることができ、好ましい。また、ハンドル部 83 とドアグリップ用把持部 55 に、同時に手を掛けて車両用ドア 10 を開ける操作を行うことができ、例えば、ハンドル部とドアグリップ用把持部が離れた位置に配されることで、ハンドル部を引く操作と、車両用ドアを車室外に押す動作とを、両手で行うドアトリムに比べて、車両用ドア 10 を開ける際の操作性がよい。さらに、ハンドル部 83 を車室内から視認され難い位置に設けることができ、インサイドハンドル装置 80 を設けることに起因して、ドアトリム 20 の意匠性が損なわれる事態を抑制することができる。また、ハンドル部 83 が車室内側に向けて回動可能な態様とされる場合のように、車室内にその回動を許容するための空間を設ける必要がなく、ドアグリップ用把持部 55 の車室外側において、好適にハンドル部 83 を配置することができる。さらに、ハンドル部 83 が配されるドアグリップ用挿入空間 53 は、車両上方かつ車両後方に向けて開口しているから、車両上方に向けて開口することで、小物入れとしての利用し易いプルハンドル用挿入空間 73 に比べて、そのような用途で利用されることが少なく、常時にハンドル部 83 にアクセスし易い構成を実現することができる。

【0047】

また、本実施形態では、スイッチベース 60 とインサイドハンドル装置 80 とプルハン

ドル７０が一の取付部材２６に対して設けられているから、これらを一括して取り扱うことができ、例えば、各部をそれぞれトリムボード２３に対して設ける場合に比べて、ドアトリム２０の組み付け作業性に優れる。具体的には、ドアトリム２０は、各種の機能部品を備える一方、それ自体が車両用ドア１０の一部を構成する部品であり、車両用ドア１０を製造する過程において、機能部品をドアトリム２０に対していつ取り付けるかということが問題となる。例えば、インサイドハンドル装置８０、プルハンドル７０、ドアグリップ５０といった、比較的大きな荷重を受けることが想定される機能部品については、ドアインナパネル１１に対して締結されることが好ましく、従来、そのような機能部品は、ドアトリム２０をドアインナパネル１１に対して取り付けの際に、トリムボード２３に対してそれぞれ組み付けられることが一般的であった。一方、本実施形態では、ドアトリム２０をドアインナパネル１１に対して取り付けより前の段階、例えば、ドアトリム２０を出荷する前の段階で、スイッチベース６０、インサイドハンドル装置８０、プルハンドル７０、及びドアグリップ５０をトリムボード２３に対して取り付けた状態とすることができ、ドアトリム２０をドアインナパネル１１に対して取り付ける段階での各機能部品の取り付け作業を低減することができる。

【００４８】

さらに、本実施形態では、スイッチベース６０とインサイドハンドル装置８０とプルハンドル７０を一の取付部材２６に対して設けることで、一体的な意匠を呈するものとしてことができ、ドアトリム２０の意匠性を向上することができる。また、取付部材２６に設けられた各種機能部品がトリムボード２３の開口部２４内に集約されることにより、各部が散漫な印象を与え難くなっている。さらに、各種機能部品が集約されることにより、トリムボード２３の上部（例えば、一般的にインサイドハンドル装置が配される前上部等）を、従来より車室外側に後退する形で薄型化することができ、すっきりとした意匠を実現可能となっている。

【００４９】

さらに、ドアトリム２０において乗員の手が届き易い領域に、スイッチベース６０のスイッチ操作部６１Ａと、インサイドハンドル装置８０のハンドル部８３と、プルハンドル７０のプルハンドル用挿入空間７３を位置させることができ、使用性に優れたドアトリム２０を提供することができる。さらに、本実施形態では、ドアトリム２０において乗員の手が届き易い領域（開口部２４内）に、スイッチベース６０のスイッチ操作部６１Ａと、インサイドハンドル装置８０と、プルハンドル用挿入空間７３を位置させることができ、使用性に優れたドアトリム２０を提供することができる。具体的には、ドアトリム２０において、乗員の姿勢を大きく変更することなく、手が届く領域は限られているが、取付部材２６に設けられた各種機能部品が集約されることにより、機能部品の各々に手が届き易く、また、機能部品間で手を移動してこれら进行操作することが容易である。

【００５０】

また、本実施形態では、ドアグリップ５０とスイッチベース６０とプルハンドル７０は、ドアグリップ５０の車両後方にプルハンドル７０が位置するとともにドアグリップ５０及びプルハンドル７０の車両上方にスイッチベース６０が位置するようにして、取付部材２６の周縁部２６Ａにそれぞれ配されている。このため、一の取付部材２６に対して各部をそれぞれ干渉することなく取り付けことができ好適である。また、ドアグリップ５０及びプルハンドル７０の車両上方にスイッチベース６０が位置するから、一般的に車室内に膨出する形をなすドアグリップ５０やプルハンドル７０によってスイッチ操作部６１Ａが隠される事態の発生を抑制することができる。これらの結果、使用性に優れたドアトリム２０を提供することができる。

【００５１】

また、本実施形態では、スイッチベース６０とインサイドハンドル装置８０とプルハンドル７０は、インサイドハンドル装置８０及びプルハンドル７０の車両上方にスイッチベース６０が位置するようにして、取付部材２６の周縁部２６Ａにそれぞれ配されている。このため、一の取付部材２６に対して各部をそれぞれ干渉することなく取り付けることが

でき好適である。また、プルハンドル70の車両上方にスイッチベース60が位置するから、一般的に車室内に膨出する形をなすプルハンドル70によってスイッチ操作部61Aが隠される事態の発生を抑制することができる。これらの結果、使用性に優れたドアトリム20を提供することができる。

【0052】

<実施形態2>

次いで、本発明の実施形態2を、図10を参照しつつ説明する。本実施形態では、インサイドハンドル装置180の位置が相違するドアトリム20について例示する。なお、上記した実施形態と同様の構造、作用及び効果については同じ符号を付し、重複する説明は省略する。

【0053】

インサイドハンドル装置180は、トリム本体部21の中央部において、取付部材26（第1部材30）の車両後側の部分に配されている。そして、インサイドハンドル装置180は、ハンドル部83がプルハンドル用挿入空間73内に位置するとともに、係止部85がプルハンドル用挿入壁部71における車室外側に位置する奥壁51Bに沿ってトリム本体部21の車室外側に延出する形で配されている。ハンドル部83は、プルハンドル用把持部75（把持部の一例）の車室外側に配されている。言い換えれば、ハンドル部83は、プルハンドル用把持部75によって車室内側から覆われている。さらに言い換えれば、ハンドル部83は、例えば、プルハンドル用把持部75に親指を掛けた状態で、他の指をプルハンドル用挿入空間73に挿入して握ることが可能な位置に配されている。また、係止部85は、プルハンドル用挿入壁部71の車両後方において、トリム本体部21とドアインナパネル11との間に配されている。

【0054】

取付部材26は、ドアインナパネル11に対して締結される締結部135、前上締結部136、及び後上締結部137と、車室外側に向けて突出する突出部138を有している。締結部135は、インサイドハンドル装置180の回動軸81に対して、解除位置P2に至るハンドル部83の回動方向（図10の矢印の方向）とは反対側に位置する。突出部138は、回動軸81に対して締結部135の反対側の位置に設けられている。また、取付部材26は、締結部135の車両前方かつ上方に位置して、ドアインナパネル11に対して締結される前上締結部136と、締結部135の車両後方かつ上方に位置して、ドアインナパネル11に対して締結される後上締結部137と、を有している。なお、本実施形態では、取付部材26は、角部33付近に、ドアインナパネル11に対して締結される角部側締結部139を更に有している。なお、締結部135、136、137及び突出部138は、その配置構成を除いては、実施形態1の締結部35、36、37及び突出部38とは同様の構成とされており、その説明を省略する。

【0055】

本実施形態では、取付部材26は、締結部135と後上締結部137との間に、把持可能なプルハンドル用把持部175を有し、ハンドル部83は、プルハンドル用把持部75の車室外側に配されている。このため、プルハンドル用把持部75を把持する際に取付部材26に係る荷重についても、締結部135と後上締結部137で受けることができ、好ましい。また、ハンドル部83とプルハンドル用把持部75に、同時に手を掛けて車両用ドア10を開ける操作を行うことができ、例えば、ハンドル部とプルハンドル用把持部が離れた位置に配されることで、ハンドル部を引く操作と、車両用ドアを車室外に押す動作とを、両手で行うドアトリムに比べて、車両用ドア10を開ける際の操作性がよい。さらに、ハンドル部83を車室内から視認され難い位置に設けることができ、インサイドハンドル装置80を設けることに起因して、ドアトリム20の意匠性が損なわれる事態を抑制することができる。また、ハンドル部83が車室内側に向けて回動可能な態様とされる場合のように、車室内にその回動を許容するための空間を設ける必要がなく、プルハンドル用挿入空間73内において、好適にハンドル部83を配置することができる。さらに、ハンドル部83が配されるプルハンドル用挿入空間73は、ドアグリップ用挿入空間53に

比べて車両用ドア１０を操作する際の荷重が低減されているから、車両用ドア１０を開け易い構成を実現することができる。

【００５６】

<実施形態３>

次いで、本発明の実施形態３を、図１１ないし図１７を参照しつつ説明する。本実施形態では、取付部材の構成が相違するドアトリム２２０について例示する。なお、上記した実施形態と同様の構造、作用及び効果については同じ符号を付し、重複する説明は省略する。また、図１３及び図１４においては、矢印ＦＲ及びＲＲの方向をそれぞれ車両前方（及び後方とし、矢印ＩＮ及びＯＵＴの方向をそれぞれ車室内側及び外側とし、矢印ＵＰ及びＤＷの方向をそれぞれ車両上方及び下方として説明する。

10

【００５７】

取付部材２２６は、図１１及び図１２に示すように、第１部材２３０と、第１部材２３０の車室外側に配される第２部材２４０とで構成されている。本実施形態では、第１部材２３０が、平面視逆三角形形状の枠状部材とされるときともに、第２部材２４０が、第１部材２３０の枠内から車両前方までの範囲を覆うようにして設けられた板状部材とされるものを例示する。第１部材２３０と第２部材２４０とは、第２部材２４０の車室内側に第１部材２３０が重なる形で、互いに組み付けられている。なお、第１部材２３０は、Ｖ字状をなす前側枠部と後側枠部とが実施形態１の第１部材３０に相当する構成とされており、前側枠部及び後側枠部が加飾パネル２８によって更に車室内側から覆われている。この取付部材２２６は、開口部２４を閉塞する形でトリムボード２３に取り付けられる。なお、第１部材２３０と第２部材２４０とは、その形状を除いては、実施形態１の第１部材３０と第２部材４０と同様の構成とされており、その説明を省略する。

20

【００５８】

トリム本体部２１には、図１２に示すように、その中央部にインサイドハンドル装置８０が配されている。このインサイドハンドル装置８０は、その係止部８５がロック装置１３の車両前方かつ下方に位置している（図１参照）。なお、図１においては、ケーブル１４を被覆する被覆部材１５を省略して示している。また、インサイドハンドル装置８０は、ケーブル１４の他端部１４Ｂを係止部８５まで案内するガイド部８８を更に備えている。そして、トリム本体部２１には、係止部８５より車両上方に位置して、ケーブル１４の中間部１４Ｃが車両上方へ変位することを規制可能な規制部９０が設けられている。以下

30

【００５９】

係止部８５は、図１３に示すように、車室外側に向けて開口する有底凹状をなし、ケーブル１４の他端部１４Ｂが嵌合可能な構成とされている。ケーブル１４は、他端部１４Ｂがケーブル１４の径より大径な球状とされるときともに、ケーブル１４の両端部１４Ａ、１４Ｂ付近を除く大部分が被覆部材１５で覆われている。また、被覆部材１５は、内部にケーブル１４を挿通可能な筒状をなし、取付部材２２６に設けられた被覆部材固定部３９に対して固定されている。そして、ケーブル１４は、インサイドハンドル装置８０を操作することで、被覆部材１５に対してその筒軸方向に移動可能とされている。係止部８５には、ケーブル１４が挿通可能とされるときともに他端部１４Ｂが挿通不能に形成された切れ込み状の係止部側スリット部８６が形成されている。

40

【００６０】

係止部側スリット部８６は、図１３に示すように、係止部８５における車両下側の位置において、車室内外方向に沿って延びる導入部８６Ａと、導入部８６Ａの終端から周方向に沿って反時計回りに車両後方まで延びる回動許容部８６Ｂと、を有している。このような構成により、係止部８５は、ケーブル１４を係止部側スリット部８６における導入部８６Ａから回動許容部８６Ｂに沿って移動しつつ、内部に他端部１４Ｂを嵌合可能な構成とされている。

【００６１】

ガイド部８８は、図１３に示すように、係止部８５から車室外側に向かって延びる形で

50

、インサイドハンドル装置 80 と一体的に設けられている。具体的には、ガイド部 88 は、車室外側に向けて延びる筒状をなし、他端部 14B が内周面 88A に摺接する態様で、他端部 14B を係止部 85 に向けて案内する構成とされている。このガイド部 88 には、その車両下側の位置において、他端部 14B を案内する際にケーブル 14 が挿通される切れ込み状のガイド部側スリット部 89 が形成されている。

【0062】

ガイド部側スリット部 89 は、図 13 に示すように、係止部側スリット部 86 の導入部 86A と連通するとともに、車室外側に向かうにつれて拡径するようにして形成されている。このような構成により、ガイド部側スリット部 89 は、ケーブル 14 を係止部側スリット部 86 の導入部 86A に向けて誘い込むことが可能となっている。

10

【0063】

ガイド部 88 は、図 14 に示すように、車室外側に向かって、少なくともトリム本体部 21 における係止部 85 の直上に位置する部位の車室外側の面 51B1 の位置まで延びる形をなす。本実施形態では、トリム本体部 21 における係止部 85 の直上に位置する部位として、内部にハンドル部 83 が配されたドアグリップ用挿入壁部 51 の奥壁 51B を例示する。つまり、ガイド部 88 は、奥壁 51B の車室外側の面 51B1 の位置まで延びる形をなす。なお、本実施形態では、ドアグリップ用挿入壁部 51 の奥壁 51B は、プルハンドル用挿入壁部 71 の奥壁も構成しており、ガイド部 88 はプルハンドル用挿入壁部 71 の車両下方に位置している。

【0064】

規制部 90 は、図 16 に示すように、トリム本体部 21（その取付部材 26）の一部として、樹脂成形によって形成されている。規制部 90 は、車両前後方向に沿って延びるリブ状をなす横リブ部 91 と、横リブ部 91 の車両前端部から車両下方に向かって延びるリブ状をなす縦リブ部 92 と、で構成されている。言い換えれば、規制部 90 は、平面視 L 字状に延設されたリブ 91，92 とされ、両リブ 91，92 が車両下方かつ車両後方に向けて開いた姿勢で配されている。

20

【0065】

規制部 90 は、図 16 及び図 17 に示すように、ケーブル 14 と係合する係合面 94 を有している。本実施形態では、係合面 94 は、横リブ部 91 の車両後方に位置する後端面 91A と、縦リブ部 92 の車両下方に位置する下端面 92A で構成されている。係合面 94 は、車室外側に向かうにつれてケーブル 14 から離れる方向に後退する形とされている。具体的には、後端面 91A が、車室外側に向かうにつれて車両前方に後退する形とされるとともに、下端面 92A が車室外側に向かうにつれて車両上方に後退する形とされている。係合面 94 は、車室外側の端部が丸角状に形成されており、車室外側の端部がケーブル 14 と干渉したり、ケーブル 14 の被覆部材 15 にダメージを与えたりする事態が抑制されている。

30

【0066】

規制部 90 は、図 12 に示すように、係止部 85 とロック装置 13 との間において、係止部 85 よりロック装置 13 に近い位置に配されている。詳細には、規制部 90 は、トリム本体部 21 における、取付部材 226 の車両後方かつ上方の角部付近に設けられている。

40

【0067】

続いて、ケーブル 14 をインサイドハンドル装置 80 に接続するとともに、ドアトリム 220 をドアインナパネル 11 に対して取り付ける態様について説明する。

ケーブル 14 は、インサイドハンドル装置 80 に接続される前の状態において、ドアインナパネル 11 の車両後方かつ車両上側の位置から、車室内側かつ車両前方に向けて導出されている（図 1 参照）。ドアインナパネル 11 に対するドアトリム 220 の取り付け作業は、図 15 に示すように、作業者がドアトリム 220 を抱えるようにして行われる。作業者は、この姿勢で、ドアトリム 220 をドアインナパネル 11 に対向する位置に保持して、ドアトリム 220 の上方から一方の腕をドアトリム 220 とドアインナパネル 11 の

50

間に挿入して、ケーブル 14 をインサイドハンドル装置 80 に接続する。

【0068】

まず、作業者は、図 15 に示すように、ケーブル 14 の他端部 14 B 付近を手を持ち、ケーブル 14 の中間部 14 C を規制部 90 の係合面 94 に係合させる。なお、図 15 においては、接続される前のケーブル 14 の外形を二点鎖線で示し、接続された状態のケーブル 14 (その被覆部材 15) を実線で示す。すると、ケーブル 14 は、中間部 14 C の配索経路が規制部 90 の係合面 94 によって 2 点の位置で規定されることで、その保形性により、他端部 14 B が係止部 85 に向かうような形で成り行きに湾曲した状態となる (図 14 参照)。言い換えれば、ケーブル 14 は、規制部 90 により車両上方への変位が規制され、所定の位置に配された状態となる。つまり、規制部 90 は、ケーブル 14 を配索する過程で、これをドアトリム 220 に対して仮固定する役目を果たす。

10

【0069】

次に、作業者は、ドアトリム 220 の上方から覗き込むようにしてケーブル 14 を係止部 85 に係止する。この際、作業者からは、ガイド部 88 が奥壁 51 B の奥方 (車両下方) において、図 14 のように視認され得る。作業者は、ケーブル 14 を把持して、他端部 14 B から下方にケーブル 14 が延びるような姿勢とし、他端部 14 B をガイド部 88 内に挿入するとともに、ケーブル 14 をガイド部側スリット部 89 に挿通する。そして、他端部 14 B をガイド部 88 に沿って摺動させ、係止部 85 内に嵌合するとともに、ケーブル 14 を係止部側スリット部 86 の導入部 86 A に挿通する。さらに、他端部 14 B が係止部 85 に嵌合した状態で、これを反時計回りに回動し、ケーブル 14 を係止部側スリット部 86 の回動許容部 86 B に挿通する。この状態では、他端部 14 B が係止部 85 に対して、車両前後方向かつ上下方向に位置決めされるとともに、車室外側に抜け止めされた状態となっている (図 13 参照)。そして、被覆部材 15 を取付部材 226 の被覆部材固定部 39 に対して固定する。以上により、ケーブル 14 のドアトリム 220 に対する本固定が完了する。なお、図 15 に示すように、ケーブル 14 の本固定が完了した後は、ケーブル 14 と規制部 90 とは当接しない状態となる。(図 15 において、二点破線で本固定後の被覆部材 15 の外形を示す)。

20

【0070】

その後、作業者は、ドアトリム 220 をドアインナパネル 11 に対して押し当てるようにして、クリップ座 23 A に係止されたクリップ (不図示) を介してドアトリム 220 をドアインナパネル 11 に対して取り付ける。以上により、ドアトリム 220 のドアインナパネル 11 への取り付けが完了する。

30

【0071】

続いて、本実施形態の作用・効果について説明する。

本実施形態によれば、トリム本体部 21 にはケーブル 14 の中間部 14 C が車両上方へ変位することを規制可能な規制部 90 が設けられているから、ケーブル 14 を他端部 14 B が係止部 85 に向かうように湾曲した姿勢で保持することができ、係止部 85 がトリム本体部 21 の上部に配されない場合であっても、ケーブル 14 と係止部 85 の位置を整合させ易い。この結果、ドアトリム 220 をドアインナパネル 11 に取り付ける際に、作業者がドアトリム 220 とドアインナパネル 11 の間において、上方から手を伸ばしてケーブル 14 を係止部 85 に係止する場合であっても、例えば、インサイドハンドル装置がトリム本体部の上部に配される場合に比べて作業者の手が届きにくい位置で、ケーブル 14 を係止する作業の作業性を向上することができる。

40

【0072】

また、本実施形態では、規制部 90 が横リブ部 91 と縦リブ部 92 とで構成されるから、横リブ部 91 の後端面 91 A と、縦リブ部 92 の下端面 92 A の 2 点でケーブル 14 の姿勢を規定することができ、ケーブル 14 の姿勢をより一層好適に保持することができる。

【0073】

また、本実施形態では、係合面 94 が、車室外側に向かうにつれてケーブル 14 から離

50

れる方向に後退する形であるから、規制部 90 とケーブル 14 との係合が解除され易く、規制部 90 からケーブル 14 に不測にテンションが掛かる事態を抑制することができる。

【0074】

また、本実施形態では、規制部 90 は、係止部 85 とロック装置 13 との間において、係止部 85 よりロック装置 13 に近い位置に配されている。このため、ケーブル 14 における規制部 90 に係合する部位から他端部 14B までのケーブル長を十分に確保することができ、これを取り回してとケーブル 14 を係止部 85 に係止する作業を行い易い。

【0075】

また、本実施形態では、インサイドハンドル装置 80 が係止部 85 から車室外側に向かって延びる形のガイド部 88 を備えるから、係止部 85 がトリム本体部 21 の上部に配されない場合であっても、ケーブル 14 の他端部 14B を係止部 85 に対して車室外側から係止し易い。この結果、ドアトリム 220 をドアインナパネル 11 に取り付ける際に、作業者がドアトリム 220 とドアインナパネル 11 の間において、上方から手を伸ばしてケーブル 14 を係止部 85 に係止する場合であっても、例えば、インサイドハンドル装置がトリム本体部の上部に配される場合に比べて、作業者の手が届きにくい位置でケーブル 14 を係止する作業の作業性を向上することができる。

【0076】

また、本実施形態では、ガイド部 88 は、少なくともトリム本体部 21 における係止部 85 の直上に位置する部位、つまり、ドアグリップ用挿入壁部 51 の奥壁 51B の車室外側の面 51B1 の位置まで延びる形をなす。このため、ガイド部 88 が奥壁 51B に隠れる事態の発生を抑制することができ（図 14 参照）、ドアトリム 220 の上方から覗き込むようにしてケーブル 14 を係止部 85 に係止する作業者がガイド部 88 を視認し易く、より一層、ケーブル 14 を係止する作業の作業性を向上することができる。

【0077】

また、本実施形態では、ガイド部 88 には、その車両下側の位置にガイド部側スリット部 89 が形成されている。このため、ケーブル 14 を他端部 14B から下方に延びる姿勢としてガイド部側スリット部 89 に挿通することで、トリム本体部 21 における係止部 85 の直上の部位とケーブル 14 との干渉を回避し易く、ケーブル 14 を係止する作業の作業性を向上することができる。

【0078】

また、本実施形態において、インサイドハンドル装置 80 は、ハンドル部 83 が車両上方に向けて回転することでロック装置 13 による車両用ドア 10 のロック状態を解除可能な構成とされている。このような構成では、例えば、車室内側に向けて回転するハンドル部を有するインサイドハンドル装置に比べて、その操作性を考慮して、インサイドハンドル装置 80 の位置がトリム本体部 21 の車両下方に位置することが想定される。本実施形態では、このような構成であっても、規制部 90 でケーブル 14 の位置を規制することで、ケーブル 14 を係止する作業の作業性を向上することができる。また、本実施形態では、このような構成であっても、ガイド部 88 を備えることで、ケーブル 14 を係止する作業の作業性を向上することができる。

【0079】

<実施形態 4>

次いで、本発明の実施形態 4 を、図 18 から図 20 を参照しつつ説明する。本実施形態では、インサイドハンドル装置の構成が相違するドアトリムについて例示する。なお、上記した実施形態と同様の構造、作用及び効果について重複する説明は省略する。

【0080】

ドアトリム 320 は、図 18 に示すように、実施形態 1 のドアグリップ 50 に替えて、トリムボード 23 の車室内側の面から膨出した形をなす膨出部 357 を備えている。膨出部 357 は、取付部材 26 で構成されており、実施形態 1 のドアグリップ 50 のドアグリップ用挿入空間 53 の開口が閉塞された形をなしている。膨出部 357 の上面 357A は、全体的には車両前方に向かうにつれて車両上方に傾斜する、フラット状の傾斜面とされ

10

20

30

40

50

ている。そして、膨出部 357 の上面 357A には、インサイドハンドル装置 380 が配設される凹部 357B が設けられている（図 19 参照）。

【0081】

インサイドハンドル装置 380 は、図 19 に示すように、車室内外方向に沿って延びる形で取付部材 26 に設けられた回動軸 81 と、回動軸 81 から車両前方に向けて延出した方形平板状のハンドル部 383 と、回動軸 81 から車両後方に向けて延出して、ケーブル 14 の他端部 14B が係止される係止部（不図示）と、を備えている。インサイドハンドル装置 380 は、ハンドル部 383、回動軸 81、及び係止部がそれぞれ力点、支点、及び作用点とされる第 1 種てこのような態様となっている。

【0082】

回動軸 81 は、凹部 257B 内に設けられ、取付部材 26 に対して移動不能に固定されている。そして、回動軸 81 は、ハンドル部 383 に対して一体的に設けられたブロック状の回動軸挿通部 81A 内に挿通されている。

【0083】

ハンドル部 383 は、待機位置 P1 と、待機位置 P1 から回動軸 81 を中心として車両上方に向けて回動することで、ロック装置 13 による車両用ドア 10 のロック状態を解除可能な解除位置 P2 と、の間に回動可能な構成とされている。なお、ハンドル部 383 は、解除位置 P2 から待機位置 P1 に復帰可能なように、トーションバネ等の弾性部材によって車両下方に付勢されている。

【0084】

インサイドハンドル装置 380 は、図 18 に示すように、トリム本体部 21 の中央部において、取付部材 26 における膨出部 357 の上面 357A にハンドル部 383 と回動軸挿通部 81A が露出する形で配されている。インサイドハンドル装置 380 は、その待機位置 P1 において、ハンドル部 383 及び回動軸挿通部 81A の上面が、膨出部 357 の上面 357A と面一状をなしている。また、インサイドハンドル装置 380 は、凹部 257B 内において、ハンドル部 383 の車両前方に手指を挿入可能な空間を有する形で配されている。そして、インサイドハンドル装置 380 は、膨出部 357 の車室内側の面に親指を掛けた状態で、他の指をハンドル部 383 に掛けて車両上方に引き起こすことが可能な位置に配されている。つまり、ドアトリム 320 は、膨出部 357 の車室内側の面と凹部 357B との間を把持するような形で、当該部分を把持部としてドアグリップ或いはプルハンドルのように機能させることができるとも言える。このような構成により、本実施形態では、ハンドル部 383 と膨出部 357 に、同時に手を掛けて車両用ドア 10 を開ける操作を行うことができ、ハンドル部を引く操作と、車両用ドアを車室外に押す動作とを、両手で行うドアトリムに比べて、車両用ドア 10 を開ける際の操作性がよい。

【0085】

〔実施形態 4 の変形例 1〕

実施形態 4 の変形例 1 について図 20 を用いて説明する。ここでは、ハンドル部の形状を変更したものを例示する。

【0086】

ハンドル部 383-1 は、実施形態 4 の方形平板状のハンドル部 383 において、その車両前端部を車室外側に向かうにつれて車両後方に後退する形に切り欠いたようになっている。このような構成により、ハンドル部 383-1 は、その車両前端部が、親指を膨出部 357 の車室内側の面にかけた状態における 4 指の並び形状に倣った形とされ、ハンドル部 383-1 を 4 指のうち複数の指でもって操作し易くなっている。ハンドル部 383-1 におけるその他の構成は、実施形態 4 のハンドル部 383 と同様とされており、詳細な説明を省略する。

【0087】

<他の実施形態>

本発明は上記記述及び図面によって説明した実施形態に限定されるものではなく、例えば次のような実施形態も本発明の技術的範囲に含まれる。

【0088】

(1) 上記実施形態では、第1部材と第2部材を組み付けることで、取付部材を構成するものを例示したが、取付部材の態様はこれに限られない。例えば、取付部材は、一体的に形成された一部材からなっているいてもよい。また、第1部材と第2部材の構成も、本発明の主旨を逸脱しない範囲において適宜変更可能である。

【0089】

(2) 上記実施形態以外にも、取付部材に対してドアグリップ、スイッチベース、プルハンドル、インサイドハンドル装置を設ける態様は適宜変更可能である。例えば、ドアグリップやプルハンドルは、取付部材に対して別体的に設けられたものを取付部材に対して取り付けようとして設けてもよい。

10

【0090】

(3) 上記実施形態では、取付部材がトリムボードに対して熱カシメによって取り付けられる構成を例示したが、取付部材をトリムボードに対して締結する手段はこれに限られない。そのような締結する手段として、取付部材に形成された取付ボスにネジ止めする手段等を採用してもよい。

【0091】

(4) 上記実施形態以外にも、取付部材、ドアグリップ、スイッチベース、プルハンドル、インサイドハンドル装置の構成、配置は適宜変更可能である。例えば、ドアグリップは、外周を取り囲む形で把持可能なように柱状に構成されていてもよい。また、スイッチベースは、さらに、サイドミラーを操作するためのスイッチ操作部等を備えていてもよく、また、取付部材(第2部材)の上端部全域ではなく、上端部の一部を覆う形で設けられていてもよい。また、インサイドハンドル装置は、ハンドル部の回動方向を、車両上方以外にも適宜設定可能であり、また、回動軸を車室内外方向に対してやや傾斜して延びる形としてもよい。

20

【0092】

(5) 上記実施形態では、運転席の側方に設けられたドアトリムについて例示したが、後部座席の側方に設けられたドアトリム等にも、本発明を適用可能である。

【0093】

(6) 上記実施形態以外にも、締結部、前上締結部、後上締結部がドアインナパネルに対して締結される締結手段は適宜設定可能である。例えば、締結手段は、ネジをドアインナパネルに設けられたナットに螺合する手段等であってもよい。

30

【0094】

(7) 上記実施形態1及び実施形態2では、取付部材が突出部を有する構成を例示したが、取付部材は突出部を有しない構成であってもよい。

【0095】

(8) 上記実施形態以外にも、規制部の構成、配置は適宜変更可能である。例えば、規制部は、ボス状をなしていてもよく、また、2本以上のリブを適宜配設した構成であってもよい。また、規制部は、トリム本体部のうち、トリムボードの一部として成形されていてもよい。

【0096】

40

(9) 上記実施形態では、規制部は、ケーブルの本固定が完了した後に、ケーブルとの係合が解除されるものを例示したが、これに限られない。例えば、規制部は、本固定後においてもケーブルと係合するものであってもよく、また、側突時等において外力が作用した場合にのみ係合が解除されるものであってもよい。

【0097】

(10) 上記実施形態以外にも、ガイド部の構成は適宜変更可能である。例えば、ガイド部がトリム本体部における係止部の直上に位置する部位から十分に離間して配されている場合には、ガイド部は当該部位の車室外側の面の位置まで延びていなくてもよい。また、トリム本体部における係止部の直上に位置する部位は、ドアグリップ用挿入壁部の奥壁に限られない。

50

【００９８】

（１１）上記実施形態３以外にも、ガイド部及び係止部の構成は適宜変更可能である。例えば、ガイド部は、片状をなすものであってもよい。また、ガイド部側スリット部及び係止部側スリット部が形成される位置も適宜設定可能である。

【００９９】

（１２）上記実施形態以外にも、実施形態１又は実施形態２の構成と実施形態３の構成とを適宜組み合わせた構成であってもよい。

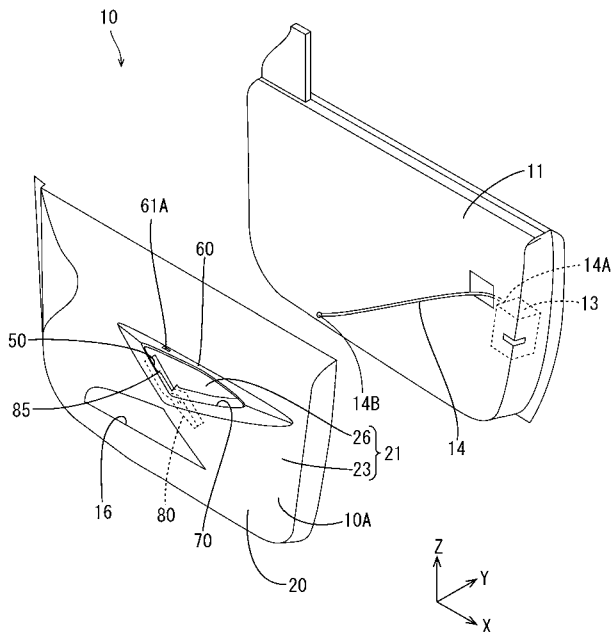
【符号の説明】

【０１００】

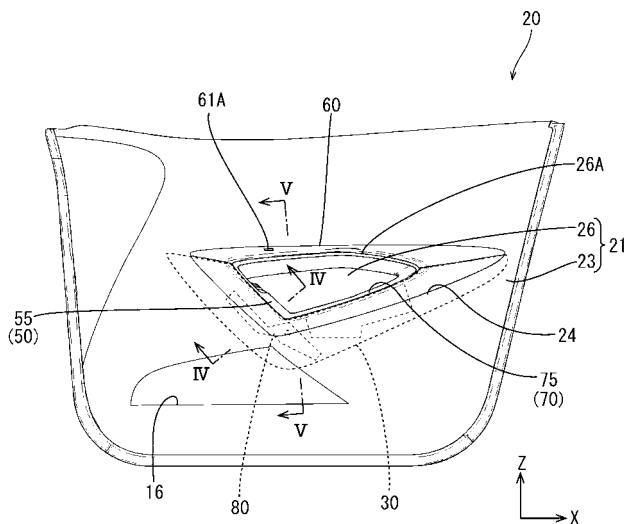
１０…車両用ドア、１１…ドアインナパネル（車体パネル）、１４…ケーブル、１４Ａ…一端部、１４Ｂ…他端部、１４Ｃ…中間部、２０、２２０、３２０…ドアトリム（車両用ドアトリム）、２１…トリム本体部、５１…ドアグリップ用挿入壁部（挿入壁部）、５１Ｂ…奥壁、５１Ｂ１…（係止部の直上に位置する部位の）車室外側の面、５３…ドアグリップ用挿入空間、８０、３８０…インサイドハンドル装置、８３、３８３、３８３－１…ハンドル部、８５…係止部、８８…ガイド部、８８Ａ…内周面、８９…ガイド部側スリット部（スリット部）

10

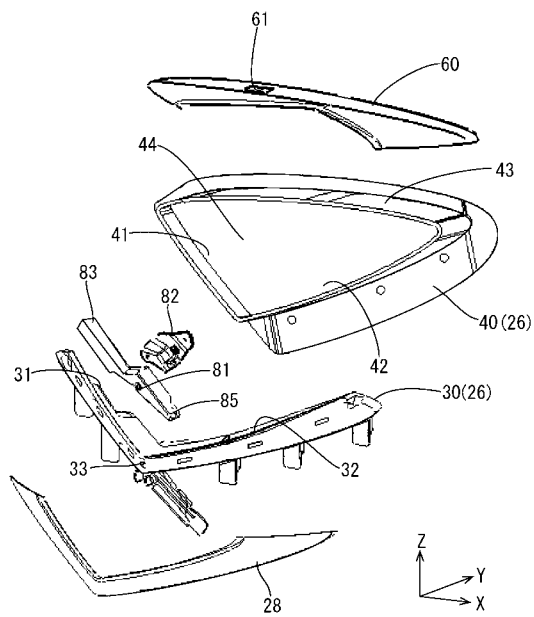
【図１】



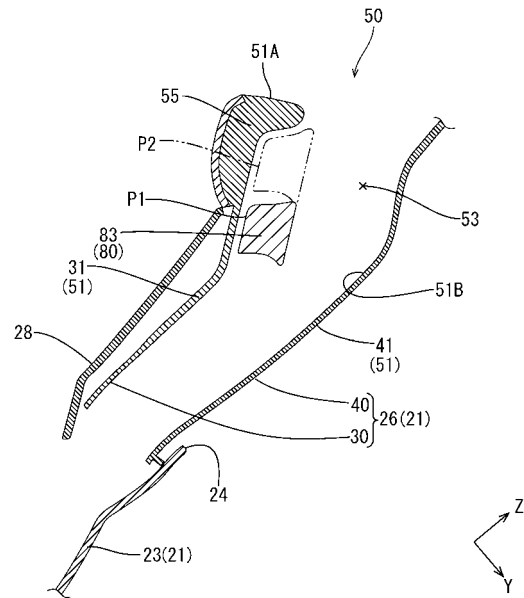
【図２】



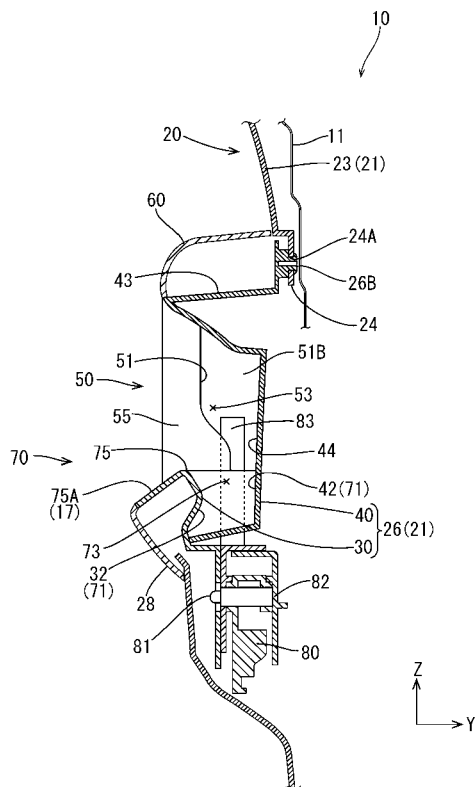
【図 3】



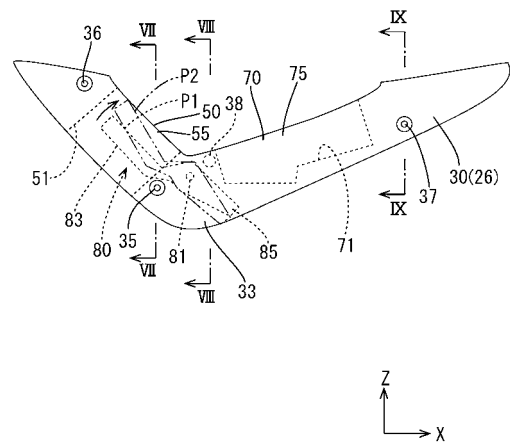
【図 4】



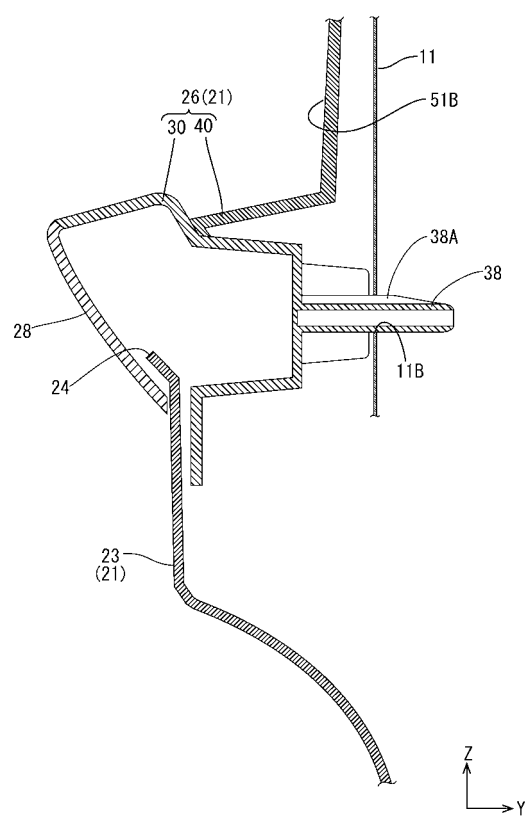
【図 5】



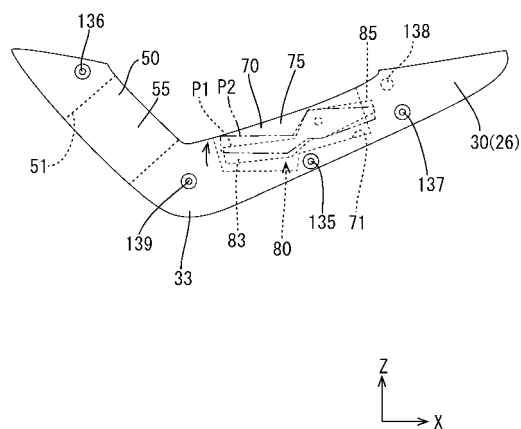
【図 6】



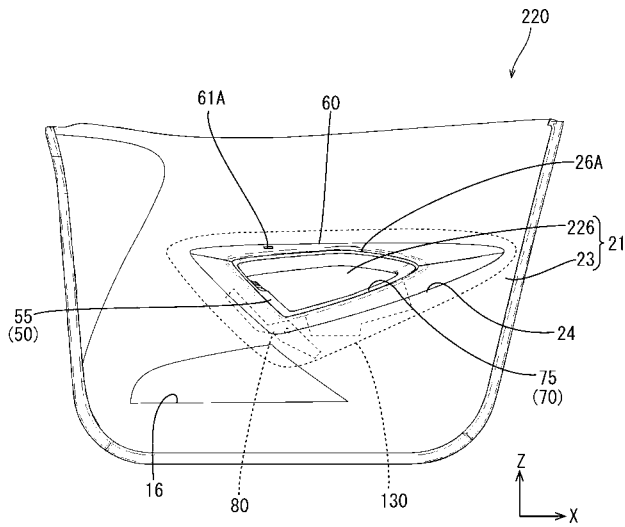
【图 8】



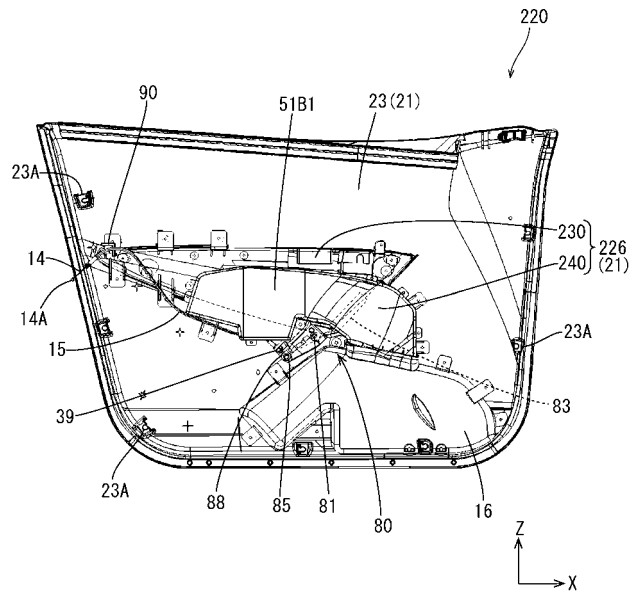
【図 10】



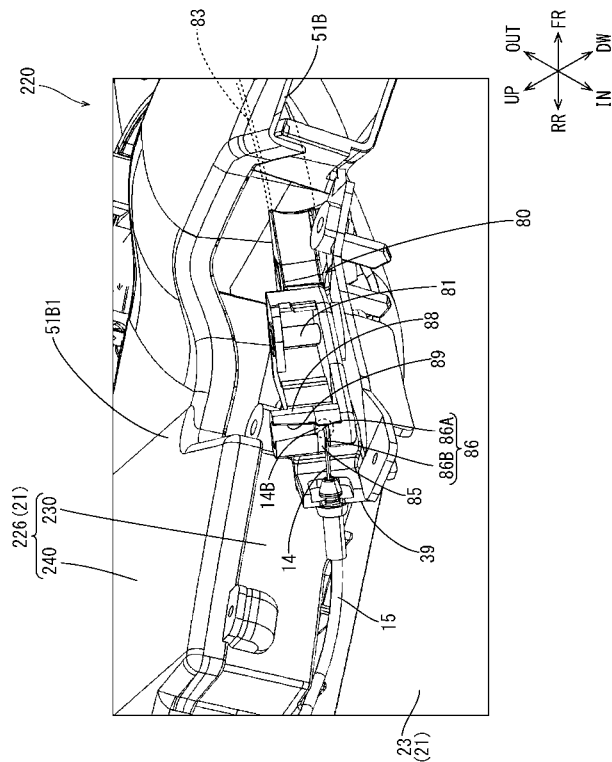
【図 1 1】



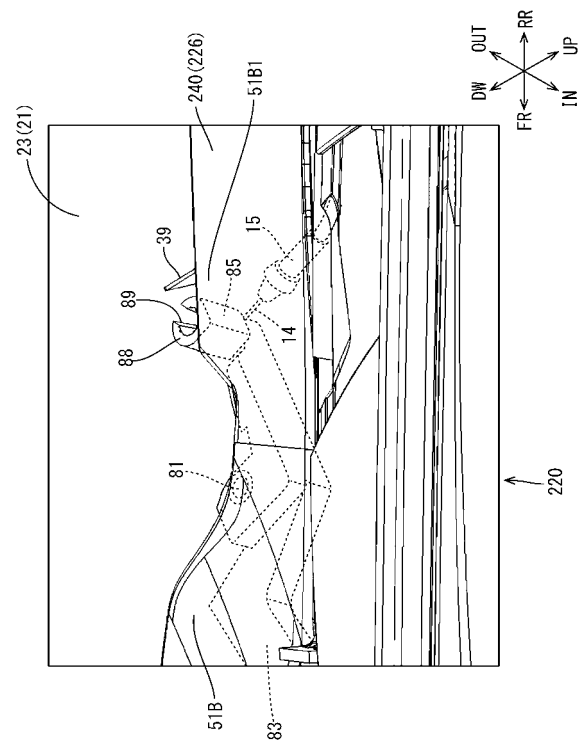
【図 1 2】



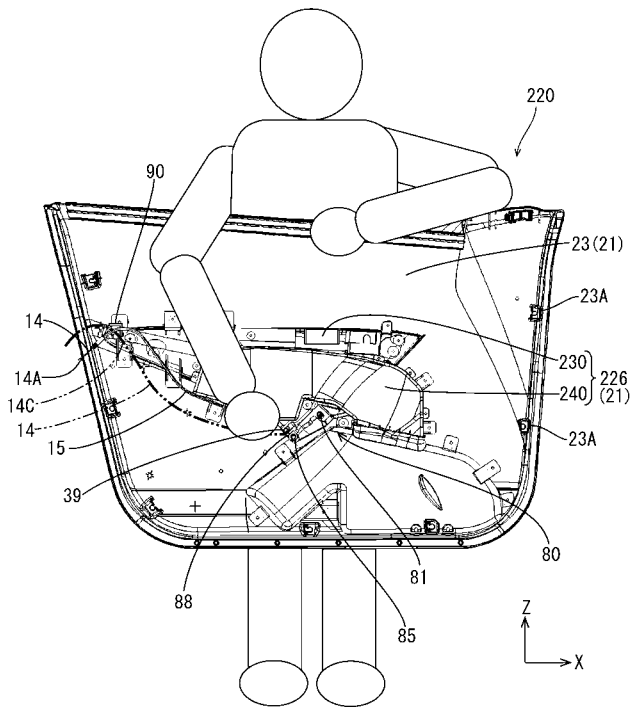
【図 1 3】



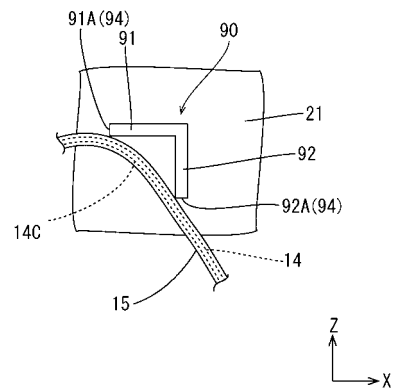
【図 1 4】



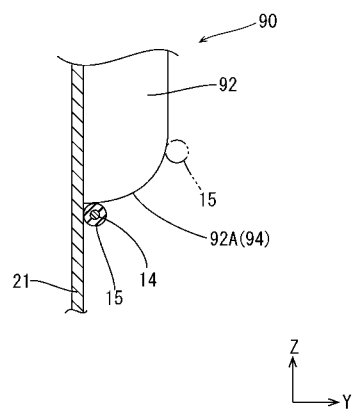
【図 15】



【図 16】



【図 17】



【図 18】

